

令和元年度校(園)内研修計画書・経過報告書

片品村立片品中学校
校長 雲越 誠司
研修主任 阿部 尚人

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

研修主題 自己と向き合い、他者との関わりを大切にできる生徒の育成
副主題 ～問題解決的な学習過程を踏まえた道徳科の実践を通して～

幼児児童生徒の実態との関わり

生徒の実態から、「自己の問題と向き合い、解決することが苦手な生徒」や「他者との関わりの中で起きた問題を解決することが苦手な生徒」が増加の傾向にある。



指導の在り方との関わり

昨年度の「主体的・対話的で深い学び」の校内研修を基盤に「特別な教科道徳」の授業改善に視点をあてた研修を行う。問題解決的な学習過程に焦点化した道徳科の授業実践を通して、本校生徒の課題解決を図るよう努める。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す幼児児童生徒像

問題解決的な学習過程を踏まえた道徳科の実践を通して、自己と向き合い問題を解決する強い心を持ち、他者と思いやりをもって接することができる。

(2) 具体化した目指す幼児児童生徒像を達成するための共通実践する手立て

教材にどのような道徳的問題が存在し、それに関連する道徳的諸価値及び、どのような解決策が考えられるかを学年で十分検討し、授業作りを行う。

① 学年における道徳の年間指導計画の整備

- ・新学習指導要領のねらいを踏まえ、本校の実態を考慮した「特別な教科道徳」の年間計画の整備。
- ・管理職や養護教諭など専門性を生かした価値項目を設定した指導計画の作成

② 学年教諭＋養護教諭＋管理職における全校道徳授業の実践

- ・学年単位輪番制で全教員が道徳の授業を実施
- ・道徳の時間を学年でそろえ、道徳の時間を学年職員が参観し合う体制づくり

③ 道徳の授業改善および学年会における教材研究

- ・学年会における授業検討および次回の教材についての方向性の共有化
- ・学年会における授業の質的向上の検討

④ 評価のありかたの研究

- ・参観者は生徒の様子や変容等の見取りを行い、記録して授業者に渡し、学年で集積し、評価に生かすようにする。

3 研修計画・経過報告

指は指導案検討 **授**は研究授業・授業検討会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.3	①本年度の研修について 研修主題、副主題の共通理解	○今年度の研修の主題・内容・方向性の確認 ○研修内容の共通理解と一人1授業者決定
5.13	②研修計画の確認、A訪問に向けて NRT結果分析について	○研修計画書検討と確認・指導案形式検討と確認 ○各学年、各教科での分析依頼 ○各部会の組織作りと研修内容、計画の確認 ・授業研究会の持ち方については検討が必要である。研修日の確保が難しいため、効果的な研修方法を考えていきたい。
5.28	③指導主事要請訪問A	○問題解決的な学習過程に焦点化した道徳科の授業実践、授業検討会、研修についての指導、助言 ・問題解決的な学習は手立ての一つであり、ねらいの達成に有効かどうかを検討することが大切である。
6.24	④ 指 A訪問指導助言と提案授業の確認	○指導助言を踏まえた研修の方向性の見直し ○一人1授業の提案「阿部」「戸部」

7.11	⑤授阿部教諭（道徳）2年 教材名「五月の風ーミカー」 内容項目 B-（8）友情、信頼	○一人1授業実践と授業検討 ○授業の成果と課題、今後の予定の確認 ・発問の工夫、発問の展開によって生徒が道徳的問題について考えやすい流れになる。考え議論する場の設定については意図的に設定し効果的な意見交流になるように場を工夫していくことが大切である。
7.12	⑥授戸部教諭（道徳）1年 教材名「疾走、自転車ライダー」 内容項目 A-（2）節度、節制	○一人1授業実践と授業検討 ○授業の成果と課題、今後の予定の確認 ・ペア・グループの活用の工夫で交流や発表の場が増えた。自分自身の問題として捉え考えることにはまだ難しさがある。 ・資料から生徒が離れられず、一般化を図ることが難しかった。補助発問の工夫が必要だった。
9.2	⑦指B訪問指導案形式の確認及び部会別提案授業の確認	○B訪問指導案検討「岡野」 ○一人1授業の提案「上山」「笹口」「倉澤」 ○県へき地研究大会に向けての確認 ○B訪問に向けて、指導案も形式の確認 ○へきセン（上山教諭）より情報提供。授業構想シートの活用について、今後、校内研修において活用していく。
9.17	⑧授倉澤教諭（道徳）3年 教材名「臓器ドナー」 内容項目 D-（19）生命の尊さ	○一人1授業実践と授業検討 ・態度を明らかにしてグラフに表すなど、考えを可視化させたり、グループ分けを工夫したりすることで多様な意見に触れることができた。 ・発問や課題をはっきりさせることでより考えが深まる。
9.24	⑨B訪問・県へき地研究大会指導案検討会	○臨時指導案検討会実施。グループ協議にて指導案検討
9.25	⑩授笹口教諭（道徳）2年 教材名「小さな工場の大きな仕事」 内容項目 C-（13）勤労	○一人1授業実践と授業検討 ・生徒たちの本音を引き出す補助発問の大切さを確認できた。 ・教材から離れて自分について考えられる発問の工夫が必要だった。
9.30	⑪指B訪問指導案検討会②	○B訪問指導案検討「岡野」
10.18	⑫指導主事要請訪問B授 岡野教諭（道徳）	○問題解決的な学習過程に焦点化した道徳科の授業実践、授業検討会、研修についての指導、助言
11.8	⑬県へき地研究大会 授篠澤教諭（理科） 授松井教諭（道徳）	○問題解決的な学習過程に焦点化した道徳科の授業実践、授業検討会、研修についての指導、助言
11.18	⑭B訪問指導助言の確認と公開研授業の成果と課題の確認	○B訪問指導助言の確認
12.	⑮研修のまとめ	○成果と課題の明確化、研修主題・副主題の見直し ○実践してきた全体、部会研修のまとめ ○紀要等の作成確認と分担、年間指導計画の見直し ○研修の成果と課題、来年度の研修の方向性検討
3.4	⑯引き継ぎ事項の確認 紀要の完成	○来年度へ向けての引き継ぎ事項の確認 ○来年度の研修主題、副主題原案作成、本年度のまとめ

※その他の研修

月日	区分	講師	内容
6.27	特別支援研修	青木美穂子SC	○配慮を必要とする生徒への対応について
7.1	食物アレルギー研修	原澤養護教諭	○食物アレルギーへの対応について

4 これまでの研修の成果と今後の課題

○成果

- ・教材から道徳的な問題を把握し、様々な解決策をペアやグループ学習で考え、議論するといった基本的な学習の流れを共通理解することができた。
- ・年間指導計画の整備や学年単位輪番制での道徳の授業など道徳科指導の素地を作ることができた。
- ・生徒の実態から求められる価値を吟味し、道徳的価値を絞り込み、考えさせたいことを検討した。それを中心に発問構成を工夫したり、指導形態について工夫したりすることができた。
- ・へき地研究センターの道徳授業構想シートを用い、生徒の実態、道徳的価値を絞り込み、授業構想をすることができた。

○課題

- ・問題解決的課程を取り入れるのに適した教材であるかの吟味が必要。
- ・道徳的価値の一般化に向けての発問の工夫や終末でのまとめや振り返りで価値の深まりや広がりが現れるように工夫が必要。
- ・交流が自分の考えを発表するだけにとどまり、考えを広げたり、深めたりといった協議の場にならないのが実状である。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・題解決的課程をどこで取り入れると効果的であるか年間指導計画に位置づけていく。
- ・交流の場が個人の発表で終わらないように効果的な交流のさせ方や発問の工夫をしていく。
- ・ペア・グループ学習や発表、考えの交流を道徳だけでなく、全教科で取り組んでいく。
- ・道徳的価値の一般化について「自分事として捉える」ための効果的な発問の工夫をしていく。